

# Living Health

●金曜特集 暮らしと健康のページ●

## 地域のがん診療体制強化へ 放射線治療で2病院連携

県の年間死亡者のうち、がんが原因でなくなる人の割合は平成22年が28・6%で、都道府県別みるとワースト4位となっている。県はこの高水準にある県民のがん死亡率の抑制を目指し、本年度、日高地方の御坊保健医療圏のがん診療体制を強化。放射線治療に関して国保日高総合病院（東充彦院長）と独立行政法人国立病院機構和歌山病院（楠山良雄院長）が連携し、和歌山病院の高度放射線治療機器のバージョンアップを予定している。

県の年間死亡者のうち、がんが原因でなくなる人の割合は平成22年が28・6%で、都道府県別みるとワースト4位となっている。県はこの高水準にある県民のがん死亡率の抑制を目指し、本年度、日高地方の御坊保健医療圏のがん診療体制を強化。放射線治療に関して国保日高総合病院（東充彦院長）と独立行政法人国立病院機構和歌山病院（楠山良雄院長）が連携し、和歌山病院の高度放射線治療機器のバージョンアップを予定している。

度放射線治療装置を11年ぶりにバージョンアップ。日高病院と連携することで、地域として拠点病院並みの医療体制充実を目指す。新宮保健医療圏では新宮市立医療センターに外来化学療法室を新設、内視鏡システムを整備。また、都道府県がん診療拠点病院でもある和歌山市の国立独立行政法人大付病院には、最新の強度変調放射線治療（IMRT）を行える機器を整備するほか、

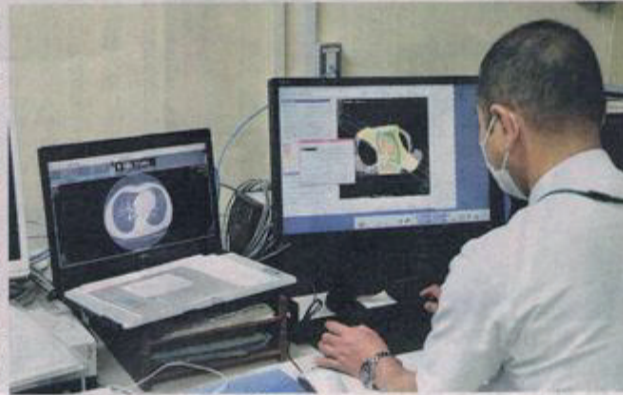
このページは毎週全曜日付の12ページに掲載します。ご意見、ご感想は、〒644-0011、和歌山県御坊市湯川町財部604、日高新聞社編集課「暮らしと健康」の係まで。ファックスは0738・23・2112、電子メールはsimpo@axel.ocn.ne.jp



11年ぶりに機器が更新される和歌山病院リニアック治療室で鳴坂技師長（写真の機器は現在の2代目）

## 和歌山病院 リニアックを更新

国は住んでいない地域にかかわらず、高いがん診療を受けられるようにするため、各地方の2次保健医療圏ごとに、▽手術▽放射線療法▽化学療法▽緩和ケアの4つが「リニアック」とは、X線や電子線などの放射線を体の外から体内の腫瘍などに照射し、がんなどを治療する医療機器。和歌山病院は昭和59年9月、県内の病院で最も早く導入。平成13年に更新して現在の機器となり、今回は3代目で11年ぶりのバージョンアップとなる。現在は県の予算が認められ、今年度から、今後現場の医師と県の担当者との調整



CTの画像をもとにコンピュータで最も効果の高い放射線照射をシミュレーション

## 新型はIGRTでさらに精度向上

「リニアック」による治療はほとんどががん（悪性腫瘍）で、基本的には手術が中心だが、有効。食事は抗がん剤との組み合わせが手術と同程度。肺がんや耳鼻科領域の咽頭がん、女性の子宮がんなどに高い治療効果がある。乳がんの治療は近年、乳房をそのまま残して腫瘍を取り除く乳房温存手術が主流となりつつあり、残った乳腺にリニアックで放射線を当てること

CTの画像をもとにコンピュータで最も効果の高い放射線照射をシミュレーション  
日高地方でリニアックがある医療機関は和歌山病院だけ。今回更新されるリニアックにはIGRT（Image Guided Radiation Therapy）という画像誘導放射線治療の機能が新たに搭載される見通し。放射線科の非常勤医師、辻本さん（64）によると、リニアックにCTが併設され、治療中に呼吸器等で微妙にずれる照射位置を確認。患者がリニアックのベッドに寝たままCT画像を撮影、治療計画の画像と比べて誤差を計算、補正できるため、従来の体の皮膚マークを頼りとする位置確認に比べて格段に精度が高まるという。

## 医師、看護師ら慢性不足 マンパワーの充実も課題

このリニアックのバージョンアップにより、御坊保健医療圏のがん診療はさらに向上するが、実際の和歌山の医療現場は医師や看護師をはじめ、専門看護師、放射線技師など各種の資格を持つスタッフの不足。マンパワーの充実が喫緊の課題となっている。和歌山病院の鳴坂さんは県内第1号の医学

## ♪さつきせんせいの

## 魚のポーズで呼吸器を強化



背中を浮かせてトンネルをつくります

季節の変わり目、突然の雷雨で全国的に落雷だけがする人や被害が相次いでいます。雷が光っているときは外へ出ないようにして、家中でヨガをするのもいいですよ。今回は呼吸器系の強化。不眠症改善等に効果のある魚のポーズです。まずはおおむけに横になり、両腕のひじ

## 若 がえりきれい ヨガ

上級者向けです。で、むちうち症など首を傷めている人は無理に体を曲げず、支えなくともかまいません。両ひじでしっかりと足を引っ掛けてあげてください。背中を引くことで肺活量のアップにも効果があります。

新田信康先生（にった・のぶかつ） 日高川町在住のヨガインストラクター。若くは、奥のエクササイズ、背骨引き締め体操、ヨガ、きもちいいヨガ、デトックスリンパなどを各地域で指導。出張講座も随時受け付け中。問い合わせは携帯090・7118・7611まで。